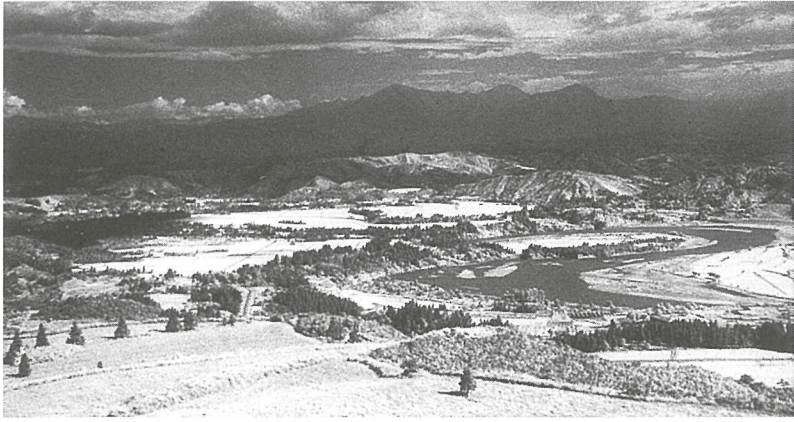


第一章 小千谷のあけぼの



縄文中期の土器（山谷）



蛇行する信濃川

― 山本山の頂上にて

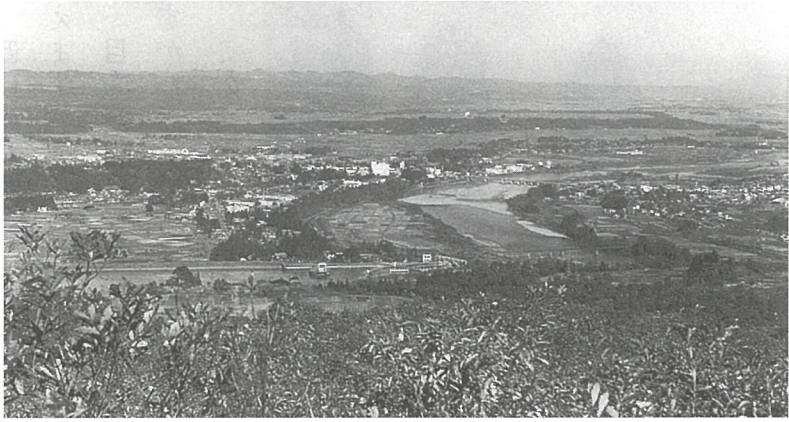
### 信濃川の流

皆さんは山本山へ登ったこと  
れを追って があるでしょう。山頂からのな

がめは、なんとすばらしいことでしょう。

十日町の方から流れてきた信濃川が、山本山  
を大きくとり囲むように蛇行して川口で魚野川  
と合流して市の中央部を流れ長岡市を通過して新  
潟市で日本海にそそいでいます。

この信濃川の源はどこなのでしょうか。地図  
をさかのぼってみましょう。はるか遠く日本ア  
ルプスから水を集めて犀川となり、一方は遠く  
甲武信岳から流れて千曲川とよばれています。  
それが長野盆地で合流し、新潟県に入ると信濃



信濃川の流れと小千谷市街

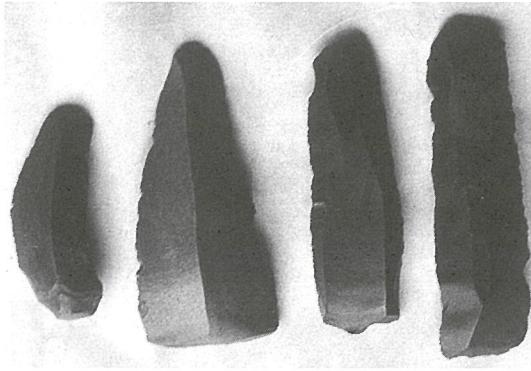
川と名を変えます。

川は土地をつくり、豊かにし、めぐみを与えます。だが、がいったんあばれだすと人間の力ではどうすることもできない破壊力はかいをもっています。小千谷はこの信濃川によってはぐくまれ、発展してきたのです。

**地形の** 小千谷は信濃川の流れによってで

**特色** きた河岸段丘（川岸に階段のように発達した地形）の町です。

山頂から南をながめると信濃川は川井・内ヶ巻付近で大きく蛇行し、川にそって国道百十七号とJR飯山線が通り、高場山・桜峰さくらみねの峰々が続いていきます。東には魚沼・古志の山なみが続き山すそにそって国道十七号線とJR上越線が通っています。



小栗田館清水出土の石刃（旧石器時代）

西には長岡市（旧小国町）と接する山々が続き、丸山・城山・小国峠こくにのとうげなどが見えます。

目を足もとに移すと小千谷の町並が手にとるように見え、北に広がる町のようにすがわかり、信濃川の谷口の町小千谷が見わたせます。

この自然にめぐまれた小千谷に人が住んだのはいつごろからでしょうか。そしてどのようなようにして発展し、現在のすばらしい小千谷市ができたのでしょうか。みなさんといっしょに考えてみましょう。

## 2 大むかしの小千谷

**小栗田こわだの館清水たてしみず** 信濃川の流域にある小千谷は、信濃川とともにその歴史がひらかれてきました。

明治時代から多くの人たちの手によって小千谷の